

---

---

# Die Heidelberger

2019/2020

発行：ドイツ語学院ハイデルベルク

---

---



## <目次>

1. 「日本におけるプラスチックリサイクルについて」 渡辺愛彦
2. 「ドイツの電力事情」 元ベルリン自由大学准教授 福澤啓臣
3. ドイツ便り
  - 「音大留学 マンハイム音大」 在原優果
  - 「音大留学 リューベック音大」 松土優衣香
  - 「デュッセルドルフに来てからはや5年」 木村恒介
4. 新任講師紹介 / Marks von Freyberg 先生 / 中川 純子先生
5. 新設クラスのお知らせ

# Über Kunststoffrecycling in Japan

## 日本におけるプラスチックリサイクルについて

渡辺愛彦 ハイデルベルク受講生

日本におけるプラスチックリサイクルについて日本を訪ねるドイツ人から、日本の街は、とても清潔(sauber)で整然としている(ordentlich)との話を良く聞く。日本人が持つ清潔さと規則を守る習性がこれに貢献していると思う。この習性は、例えば各家庭のゴミの分別の仕方にも反映され、それがプラスチックのリサイクルにも良い影響を与えている。

大量生産、大量消費の時代に我々の生活を便利してくれたものの一つがプラスチックであるが、その量は年々増加し、海洋マイクロプラスチックによる汚染など地球環境の悪化を招いている側面もある。

現在、プラスチックのゴミを減らすべく、使用を減らし(Reduce)、再利用を促進し(Reuse)そしてリサイクルを積極的に行う(Recycle)と言う3R促進運動が世界で展開されている。

日本はこれまでこの3Rの面で進んだ国と言う自負を持っていたが、最近のEUの進めるサーキュラーエコノミー推進政策を見るとそこから学ぶべき点も多いと感じる。

ドイツの消費者センターのサイトを見ると、プラスチックを減らす工夫が多く列挙されている。もちろん日本でも種々工夫がなされている。最近訪ねた東京近郊の藤沢市の商店街では、積極的にプラスチック袋などの使用削減、再利用、リサイクルに心掛けており、

そのための種々工夫がなされている。市長は、ごみ減量を行う商店を「ごみ減量推進店」として認定している。このような動きが日本全体に広がれば環境保全に役立つ。

私の住む地域では、使用済のペットボトル及びプラスチック包装容器などのプラスチックを、各家庭が自治体の決めたルールに従い汚れなどを取り清潔な状態で整然と分別し、それを自治体が無料で回収し、更にリサイクルされる。状態の良い使用済プラスチックが、安価で質の高いプラスチックにリサイクルするポイントとなる。

日本人は、ゴミの分別においても日本人の習性を生かし適切に対応している。日本は、リサイクル技術の開発を進めることで、プラスチックリサイクル分野でも世界をリードする国となる潜在能力を持つと考える。それにより、環境保全への貢献を果たせることと確信する。



Wir hören oft von Deutschen, die Japan besuchen, dass japanische Städte sehr sauber und ordentlich sind. Ich denke, dass die Sauberkeit der Japaner und die Gewohnheit, sich an die Regeln zu halten, dazu beitragen. Dieses Verhalten spiegelt sich beispielsweise darin wider, wie Haushalte Müll trennen, was sich positiv auf das Kunststoffrecycling auswirkt.

Eines der Dinge, die unser Leben im Zeitalter der Massenproduktion und des Massenkonsums angenehmer gemacht haben, ist Plastik, aber dessen Menge steigt von Jahr zu Jahr, und es gibt auch einen Aspekt, die globale Umwelt verschlechtert, wie die Verschmutzung durch Mikroplastik im Meer.

Derzeit laufen weltweit 3R-Werbe-Kampagnen zur Reduzierung von Plastikmüll: Reduzierung des Verbrauchs (Reduce), Förderung der Wiederverwendung (Reuse) und aktives Recycling (Recycle).

Japan ist stolz darauf, dass es bei diesen 3R-Aspekten Fortschritte gemacht hat, aber ich bin der Meinung, dass die Politik der jüngsten Zeit zur Förderung der Kreislaufwirtschaft, die von der EU gefördert wird, zu vielen Erkenntnissen führt.

Wenn Sie sich die Website des deutschen Verbraucherzentrums ansehen, gibt es viele Ideen zur Reduzierung von Kunststoffen.

Natürlich entstehen in Japan verschiedene Ideen. In der Stadt Fujisawa in der Nähe von Tokio, die ich kürzlich besucht habe, versucht die Einkaufsstraße aktiv, Plastiktüten zu reduzieren, wiederzuverwenden und zu recyceln. Zu diesem Zweck werden verschiedene Maßnahmen ergriffen. Der Bürgermeister zertifiziert abfallreduzierende Geschäfte als „Müllreduzierungs-Werbegeschäfte“. Wenn sich eine solche Bewegung in ganz Japan ausbreiten würde, wäre sie für den Umweltschutz von Nutzen.

In meiner Region werden Kunststoffe wie gebrauchte Plastikflaschen und Plastikverpackungsbehälter sauber und ordentlich nach den von der lokalen Regierung festgelegten Regeln sortiert und von der lokalen Regierung kostenlos abgeholt und weiterverwertet. Der gute Zustand von gebrauchtem Plastik, ist entscheidend, um es in billiges und hochwertiges Plastik umzuwandeln.

Die Japaner reagieren angemessen, indem sie die japanischen Gewohnheiten bei der Mülltrennung nutzen. Japan wird so das Potenzial entwickeln, durch die Entwicklung von Recycling-technologien zum weltweit führenden Land im Bereich Kunststoffrecycling zu werden. Wir sind überzeugt, dass wir zum Umweltschutz beitragen können. (ご本人訳)

## 上田浩二先生の実務翻訳クラス

実務翻訳入門講座：水曜 18:50 ~

実務翻訳中級講座：木曜 10:00 ~

実務翻訳基礎講座：金曜 18:50 ~

翻訳プロ養成講座：土曜 10:00 ~



## 国ごとの大きな湖があり、たくさんの川が流れ込み、流れ出ている。

EU 内の電力事情を理解するには、それぞれの国ごとの電力網を大きな湖と想像してほしい。その湖には何百本もの川から水（電気）が流れ込んでいる。そして同じように消費者に向かって何百本もの川から水が流れ出ている。さらに国ごとの湖と湖の間を何本かの川がつないでいる。だから、例えば、ドイツの再エネ電力小売り会社がスウェーデンやオーストリアから水力発電によるグリーンな（自然エネルギー）電気を購入し、販売することもできる。フランスから原子力電力も流れてくる。だが、川の流量は多くないので、外国との電力売買は量的に限られている。ちなみに、年間を通してみると、ドイツは電力輸出国である。

### ドイツの電力エネルギーミックス (20018年発電レベル)

最も多いのが再エネ電力で40.2%、石炭と褐炭で38.2%、原子力13.3%、天然ガス7.4%である。再エネの内訳は風力が50.3%、太陽光21.2%、バイオマス20.7%、水力7.8%である。風力が半分を占めている。それとバイオマスが太陽光と拮抗しているのもドイツの特徴だ。



## 7基の原子力発電所による電力は全体の13%

2018年現在ドイツでは7基の原子力発電所が稼働中で、総発電量の13%を占めている。2022年に全ての原子力発電所のスイッチが切られる。ただ、最近稼働期間の延長を求める声が高まっている。ドイツの原発の運転期間は約30年なので、日本やフランスなどの40年、あるいは60年に比べて、まだ十分使えるし、安全だと主張している。

### 再エネ電力業界を覆い始めた暗雲

ドイツの再生可能エネルギーの将来は去年まで輝いていた。ところが、今年に入ってから暗雲が漂い始め、将来を危惧する声が高まっている。まずこれまでの成果を見てみよう。

再エネ電力消費の割合が2019年は42%に達するだろうとつい最近発表された。2030年の目標である65%は達せられそうな途中経過数字だ。さらに2019年の再エネ電力による電力量：1830億KWhは、褐炭と石炭による電力量：1250億KWhを大きく引き離している。これまでに建てられた太陽光の定格出力は48000MW、風力は53500MWである。原子力発電所の定格出力は主に一基1000MWである。原発は一応24時間連続運転ができるとされている（実際は点検、故障もあるので効率は下がる）のに対し、太陽光の稼働効率は平均すると12%、風力は25%といわれている。単純に換算すると、それぞれ原発の6基分、13基分に相当する。

ところが昨年まで順調に伸びてきた再エネ電力の建設の進み具合が今年に入ってグッと遅くなっている。2019年9月の風力の入札公募額500MWに対して落札されたのは176MWに過ぎない。この5年の平均建設速度に比べ

て80%も遅くなっている。このままでは2030年の65%の目標は達せられそうにない。

その原因として建設面積の不足(広大な平地にもかかわらず)、長期化する許認可の手続き、さらに住宅地域からの最低立地距離(州によって違うが約1km)と地域住民(右翼党「他の選択枝党」などが組織している)の反対などが挙げられている。

### 見逃されやすいドイツと日本の地理的条件の違い

ドイツに長く住んでいて、日本からのお客さんにドイツの再エネの素晴らしい進展状況を見せると、なぜ日本は少ないのだろうかとよく聞かれる。筆者の見るところ、地理的な条件の違いが意外と見逃されているように思われる。簡単な数字だが、日本における平地面積は国の27%、ドイツは76%である。つまり、太陽光発電や風力発電用に転用できる面積がドイツでは圧倒的に広い。日本では平地があれば、人が住んでいるか、工業地帯か、耕作地である。山岳地帯に再エネの発電施設を作る場合には、コストとして跳ね返ってくる。それと将来期待されている洋上風力発電だが、ドイツの海は北海もバルト海も遠浅で数十キロ沖合でも数十メートルの深さに過ぎないから、急峻な地形の日本の海に比べて、風車建設において技術的にも費用の面でも大きな違いが出てくる。バイオマスにおいても、建設費用(一億円以上)はドイツの中規模の農家(平均耕作地60ヘクタール)が十分出資できる範囲である。

### 市民運動の推進力

それと脱原発とCO2の削減を求める市民社会にも大きな違いがある。今年に入って巨大なうねりになったスウェーデンのグレタ・トゥーンベリさんが始めたFridays for Future運動(FFF)はドイツの若者の間で燎原の火のように広まり、9月20日(金曜)には140万人もが参加した。緑の党は今年に入ってからの選挙で得票率が倍にも増えている。2030年の目標の達成にやる気を出さない政府与党(キリスト教政党と社民党)の得票率は減るばかりである。特に若者の間で。

お尻に火がついた連邦政府は気候変動対策法を11月15日に連邦議会を通過させたが、連邦参議院(州の代表)では部分的な賛成しか得られていない。同法の目玉はCO2価格で、産業、エネルギー、建物、交通の分野で2021年から炭素1トン当たりの排出に対して10ユーロを科するものだ。2025年までに35€に引き上げられる。緑の党(30€)やFFF(180€)はあまりに安すぎて、効果がないと批判している。



## ドイツ便り

### ■□■□■□■□■□■□■□■□■音 音楽留学 マンハイム大学

在原 優果 (ハイデルベルク受講生)

■□■□■□■□■□■□■□■□■  
10月からマンハイム国立音楽舞台芸術大学の大学院で勉強しています。

ドイツ留学を決めたのはおよそ1年前のことで、入試の3ヶ月前にドイツへ渡り、その間現地のドイツ語学校に通いながら入試の準備をしていました。

日本の音大で一通り文法は勉強したので、読み書きはまだ良いものの、話すことがとても苦手で、ドイツに来てからとても苦労しています。

多くの外国人は、むしろ話すことの方が得意なようで、同じクラスの子たちでもスムーズに会話をしていて、かなり衝撃を受けました。

大学での授業、レッスン、アンサンブルの合わせ等はもちろん全てドイツ語です。当然読み書きよりも、聞き取りや話すことが必要となります。話せないことへの不甲斐なさも感じますが、良い練習の機会になっています。

入試前に門下生と知り合い、その方の手助けにより合格後すぐに住む場所も決まり、銀行口座開設や健康保険加入、大学への必要書類の提出等も戸惑うことなく終わりました。また、たくさんの日本人の方々とも仲良くなり、困ったことがあった際は相談に乗っていただいています。特に知らない土地では、助けていただける方がいる分だけ本当に心強いので、日本人に限らず多くの人との繋がりを

大事にすべきだと思いました。

言葉の壁は厚いものの、音楽に対する環境がやはり日本と大きく違い、ドイツにすることが出来て本当に嬉しく思っています。

学校では演奏の機会がたくさん設けられており、まだ入学して間もないですが1週間のうちに3回も本番があったこともあり、忙しくも充実した日々を送っています。



また、劇場やコンサートホールも学校の近くにあり、オペラやオーケストラ、室内楽など、様々な演奏会を安価な学生料金で楽しむので、多くの学生がよく足を運んでいます。



これから留学を考えている、控えている方々のご参考に少しでもなれば幸いです。また、素敵な留学生活につながることを願っています。



## 音楽留学 リューベック大学

松土 優衣香 (ハイデルベルク受講生)



私は今年の10月からドイツのリューベック音楽大学のMasterで学んでいます。

留学をしたいと思ったきっかけはセミナーでドイツに行った時にドイツの街や空気感に惹かれたからでした。自然の豊かさ、多様な民族性、自由な雰囲気の魅力を感じここで勉強したい!と思いました。



留学をしようと決めてからまず始めたのは先生探しでした。色々な先生方の演奏を聴いたり留学している方にその音大の先生や学校の様子を教えてもらったりセミナーでレッスンを受けたりしました。そこで気になった先生には Vorspiel(自分の演奏を聴いてもらうこと)をしてもらえないかと連絡してお会いしたり演奏を聴いていただいたりしました。これから留学を目指すなら複数の先生に連絡して可能性を広げておくのも良いと思います。

それから街や大学の様子も知りたかったので門下生のコンサート (Vortragsabend) や卒業試験も聴きに行きました。それぞれのクラスや学校の雰囲気がわかるのでオススメです。

日本でもドイツ語を勉強していましたが受験前にはドイツでも語学学校に通いました。ハイデルベルクにはドイツの語学学校に通うための手続きを全て行っていただいた上に親

身になって相談にのっていただき大変感謝しています。ちなみに Master を受ける場合、ドイツ語レベル A2 ~ B2 の資格が必要な場合があります。合格証明書が必要ない大学もありますがほとんどの大学は出願時か入学後に提出するようです。願書を出すのも合格してからの手続きもドイツ語ですし受験前に資格を取っておくと安心です。

今私はレッスンや数多くの素晴らしい演奏会を聴くこと、新しい友人との出会いなどドイツでの生活を満喫しています。

これから留学を目指す皆様に私の話が少しでもお役に立ちますように。



### ♪♪♪♪音楽留学相談♪♪♪♪

本校の受講生を対象に、無料で音楽留学専門担当者による留学相談を承ります。

#### <相談内容>

- ・ドイツ語圏音楽大学留学の基礎知識
- ・各大学の入試要項の確認
- ・必要な語学力の確認とドイツ語学習計画
- ・音楽留学に向けたスケジュール作成
- ・大学選定時における注意点など

要事前予約。手続き代行・書類作成・翻訳など料金が発生する場合があります。お気軽にお問い合わせください。



## デュッセルドルフに来てから早 5 年 木村 恒介 (ハイデルベルク受講生)



ドイツのデュッセルドルフに来てからはや 5 年が過ぎました。まさにあっという間に感じられ、そんなに長くこちらで生活することになるとはと驚くばかりです。

私は日本にいる時から美術作家として活動をしており、もちろん海外の美術や作家というものに興味はありましたが、なかなか海外へ行くということは考えられずにいました。そんな最中、旅行で初めてドイツを訪れ、そこで見た様々なことに刺激や衝撃を受け、すぐにドイツへ行くことを決意しました。美術館やギャラリー、アーティストのアトリエを訪れては驚きワクワクしたことを覚えています。私が住んでいるデュッセルドルフはドイツの西側にあります。ドイツ自体がヨーロッパの中心に位置していることから様々な国へのアクセスが良いのですが、西側は特にそれが顕著だと思われまます。オランダやベルギー、フランスなどは 2、3 時間で訪れることができます。すぐに他国の文化を体験できることはとても魅力的です。

ドイツ滞在一年目は奨学金に応募し、受領されたことで一年間の滞在機会を得ました。しかし、それでも異国の地での生活は未知なもので色々な不安も多く、その期間後には帰国するのだろうと漠然と考えていました。しかし、わずか一年の期間中に、本当にたくさんの人と出会い、助けられ、またドイツでの美術家としての生活というものについても強い憧れを持つようになりました。もちろん自分自身が外国人になって初めて経験する壁はいくつもありましたが、その頃には期間後もこちらに残ろうという思いの方が強くなっていったように感じます。



現在はデュッセルドルフ芸術アカデミーに入学し、学生をしています。日本の美術大学とは全く異なる教育環境で学ぶことができることにとても充実を感じています。ここでも日常的に異文化交流が起これ、それにより自分のアイディアや考え方など、日本にいた時に比べて随分変化があるのではないかと感じています。毎日がとても楽しく、新しいです。

皆さんも、いざ渡独をするということには色々な不安があるかもしれません。私は語学が苦手で、渡独当初はドイツ語はおろか、英語も“話す”という点ではダメでした。多くの失敗もしましたが、それも今思えば笑い話になるいい思い出です。あまり細かいことは気にせず、まずは体験してみる。その後に色々考えてみる。もしかしたらそれくらいでもいいのかもしれない。

### ★ドイツに同窓会があります★

#### ドイツ語学院ハイデルベルク

#### 同窓会・欧州代表事務所

同窓会はデュッセルドルフ・ケルン地区を中心にハンブルク地区、フランクフルト地区があります。

最新の情報交換の場として赴任の方から留学生までどうぞお気軽にご連絡ください。

連絡先：新野 (にいの)

E-mail: heidelberg@kddnet.de

★☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆  
新任講師紹介

Herr Markus von Freyberg

★☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆



*Herr Freyberg, Sie sind nun seit einigen Monaten für Heidelberg tätig. Davor haben Sie jedoch bereits gut zwanzig Jahre als Deutschdozent in München gearbeitet. Welche Lehre konnten Sie aus dieser Berufserfahrung ziehen?*

フライベルク先生は、数ヶ月前からドイツ語学院ハイデルベルクで教えていらっしゃいますが、それ以前からミュンヘンで20年以上ドイツ語教師をされていましたよね。その経験からどのような教訓を得られましたか？

Meines Erachtens sollte der Sprachunterricht so kommunikativ wie möglich gestaltet werden. Sprachanwendung stellt für mich den Schlüssel zum erfolgreichen Fremdspracherwerb dar. Daher ist hiermit schon im Training zu beginnen. Außerdem motiviert es die Teilnehmer, indem es Ihnen in praxisnahen Partnerübungen zeigt, dass das Erlernete durchaus nutzbringend ist.

外国語の授業ではできる限り多くコミュニケーションを図ることが大切だと思います。

外国語を効果的に習得するためには実際に使うことが大切で、トレーニングもここから始まります。さらに、学んだことが本当に役立つということが実践的なパートナー練習の中で分かれば、生徒の方々のモチベーションも高まると思います。

*Sie haben sich ja relativ kurzfristig entschieden, nach Japan zu ziehen. Haben Sie sich schon vom ersten Kulturschock erholt?*

あまり準備する間もなく、来日をお決めになったそうですが、もう最初のカルチャーショックから立ち直られましたか？

Nun, für mich war Tokyo, als ich hier Ende Mai ankam, kein Neuland. Meine Frau kommt schließlich aus Chiba, und wir sind seit 2008 einmal im Jahr für mindestens drei Wochen hierhergekommen. Deshalb wusste ich mehr oder weniger, was auf mich zukommen würde. Ich habe jedoch immer wieder die interessante Erfahrung gemacht, dass so ein Kulturschock in beide Richtungen funktioniert. Wenn man also nach einem längeren Auslandsaufenthalt wieder in sein Geburtsland zurückkehrt, kann einem dort vieles sehr befremdlich vorkommen.

5月末にこちらに越してきましたが、すでに東京は初めてではありませんでした。妻が千葉県出身なので、2008年以来、年に一度は日本を訪れ、少なくとも3週間は滞在していました。そのため多少はどのような場所か知っていました。ですが、カルチャーショックをドイツと日本の両方で感じるという興味深い経験を何度もしました。しばらく海外に

いて、再び母国に帰ると多くのものがとても違ったものに見えてきます。

***Wieso haben Sie sich eigentlich entschieden, nach Tokyo zu ziehen?***

**なぜ日本に引っ越そうと思ったのですか？**

Mich hat diese Stadt schon immer über alle Maßen fasziniert. Hier sind so viele Extreme vereint: Die unglaubliche Modernität von Nishi-Shinjuku und Marunouchi steht beispielsweise im absoluten Kontrast zu den wundervollen japanischen Gärten und den alten Tempeln und Schreinanlagen. Überhaupt begeistert mich neben der sublimer traditionellen Architektur Japans die im Alltag gelebte Spiritualität. Auch wenn sich die meisten Japaner nicht als religiös bezeichnen würden, sehen sie doch die Andacht an schintoistischen und buddhistischen Stätten als selbstverständlich an. Dabei steht jedoch vor allem das Ritual im Vordergrund und nicht so sehr der Glaube an transzendente Phänomene. Selbst Schintopriester geben heutzutage vermehrt zu, eigentlich nicht an die Existenz ihrer Gottheiten zu glauben, halten aber dennoch an den geistlichen Riten ihres Kultes fest und ziehen hieraus ihre Spiritualität. Außerdem empfinde ich den Polytheismus als ein sehr tolerantes Konstrukt, das sich gut auf andere Lebensbereiche übertragen lässt. Mit all dem kann ich mich sehr gut identifizieren.

東京は前からずっと、私にとって非常に魅力的な町でした。ここでは、数多くの極端なものが並立しています。例えば、西新宿や丸の内への信じられないほどの現代性が、見事な日本庭園や古い寺院、神社と対照をなしてい

ます。日本の高尚で伝統的な建築物や、日常の中に生きている精神性に魅了されます。たいていの日本人は自分が信心深いとは言わなくとも、神社や寺院に参拝するのはごく自然なことだと考えています。しかしなにより重要なのは儀礼であって、超越的な現象に対する信仰ではありません。今日では、神道の神官ですら神々の存在を信じていないと認めることも多くなっていますが、それにも関わらず祭祀における儀式性を重要視し、そこに精神性を見出しています。さらに多神教は、他の人生の分野にも当てはめることのできる、非常に寛容なものだと感じます。これらのすべてにとっても共感できます。

***Zu ihrem eigenen kulturellen Hintergrund: Sie sind in München geboren und haben dort über vierzig Jahre ihres Lebens verbracht. Das bayerische Naturell genießt ja einen ganz besonderen Ruf. Womit sollte sich jemand beschäftigen, der der Münchner Mentalität auf den Grund gehen möchte?***

先生ご自身の文化的背景ですが、先生はミュンヘンで生まれ、そこで40年以上過ごされました。バイエルンの気質はかなり独特なものだと言われています。ミュンヘン人のメンタリティーを深く知るにはどうすればよいでしょう？

Mit der Absurdität der Sketche von Karl Valentin. Meines Erachtens ist das Münchner Wesen nirgends so pointiert dargestellt, wie in seinen Bühnenstücken. Bemerkenswert ist dabei auch seine Nähe zum deutschen Dadaismus, mit dem ich mich in der Vergangenheit gern beschäftigt habe und der es

auch bis nach Japan geschafft hat. So hat sich u. a. das von Murayama Tomoyoshi gegründete Künstlerkollektiv MAVO hier in Tokyo im frühen 19. Jahrhundert mit den avantgardistischen Bewegungen Europas auseinandergesetzt und sie für die japanische Realität adaptierte.

不条理な世界観を持つカール・バレンティンの寸劇を推薦したいですね。彼の舞台作品ほどミュンヘンの本質を的確に表わしているものはないように思います。注目に値するのは、私が過去に好んで取り組んだドイツのダダイズムに通ずるものがあるということです。ダダイズムは日本にも、もたらされています。村山知義によってつくられた芸術家グループ「マヴォ」などは、ここ東京で19世紀の早い時期に、前衛的なヨーロッパの運動に取り組み、日本の状況に合うよう作りなおしたのです。

***Gibt es außer Valentin noch einen anderen Münchner, den Sie uns ans Herz legen möchten?***

ヴァレンティンの他にぜひ紹介したいミュンヘン人はいますか？

Einer der bedeutendsten Söhne der Stadt ist für mich Franz Marc. Zusammen mit Kandinsky gründete er Anfang des 20. Jahrhunderts die expressionistische Künstlergruppe „Der Blaue Reiter“, die in München aber vor allem auch in Murnau sehr aktiv war, wo sie das Bayerische Voralpenland auf die Leinwand bannten. An

seinem Werk fasziniert mich in erster Linie die Auseinandersetzung mit dem Konzept des Pantheismus, den er durch die Harmonie des vollkommen in der Natur integrierten Tieres darzustellen suchte. Leider war es ihm nicht vergönnt seine späte Hinwendung zur absoluten Abstraktion zur Vollendung zu bringen, da er ja bedauerlicherweise im ersten Weltkrieg fiel.

フランツ・マルクは、ミュンヘンが生んだ最も重要な人物に数えられると思います。

カンディンスキーとともに、20世紀初頭に表現主義の芸術家グループ「青騎士」をつくりました。ミュンヘン、とりわけムルナウでとても精力的に活動していました。バイエルン州のフォアアルペンにあるムルナウの様子をキャンバスに留めたのです。彼が作品を通して汎神論の考え方に取り組んでいるところに、なによりも魅力を感じます。完全に自然に溶け込んだ動物たちがなす調和によってそれを表現しようとしていました。しかし残念ながら、第一次世界大戦で亡くなったため、後期の彼が傾倒した絶対的な抽象化を完成させる機会はありませんでした。

***Wann sollte man denn München am besten besuchen?***

ミュンヘンを訪れるのにベストな時期はいつでしょうか？

Unbedingt jetzt zur Adventszeit. Die vielen Lichter der Weihnachtsdekoration und -bäume und auf den Märkten verströmen eine ganz besondere, feierliche Atmosphäre.

まさに今、アドベントの時期にぜひとも訪れていただきたいですね。クリスマスの装飾

やツリーにたくさんの明かりが灯り、野外マーケットには特別なお祝いの雰囲気が漂っています。

*Ja, wir gehen ja schon langsam auf Heiligabend zu. Was verbinden Sie mit Weihnachten?*

だんだんクリスマスイブが近づいてきますね。先生はクリスマスというと何を思い浮かべられますか？

Kerzenschein, Zimtgeschmack, Harzgeruch, Familie und natürlich Geschenke. Als Junge freut man sich selbstverständlich über Spielzeug und andere Dinge, die das

Kinderherz begehrt. Mit der Zeit wurde jedoch zu beschenken zur größeren Freude als beschenkt zu werden. In diesem Sinne wünsche ich allen ein frohes Fest und ein gesegnetes Neues Jahr.

ろうそくの光、シナモンの味、樹脂の香り、家族、そしてもちろんプレゼント。子どもは、心を魅了するようなおもちゃなどに大喜びします。しかし大きくなるにつれて、プレゼントをもらうよりも、贈る喜びのほうが大きくなりました。

皆さまが楽しい年末と幸せな新年を迎えられようお祈り申し上げます。





# ！！新設クラスのお知らせ！！

## 中川純子先生の発音クラス ドイツ語の発音～超入門編

講師：中川 純子

金曜日 19:00～21:40 (全4回)

1回:2月7日 2回:2月21日 3回:2月28日 4回:3月6日

教材：立川・中川「ドイツ語発音・発話 徹底ガイド」(郁文堂)

ドイツ語初級の方を対象にした授業です。本講座では発音の最も基本となるルールを学んだのち、ドイツ語らしい発音とは何かを、自らが発音してみることで身につけていきます。日本語とドイツ語では音の出し方は大きく異なっています。まずは今まで無意識に発音していた日本語の音について、自分がどのように発音しているのか自覚し、意識して出せるようにしましょう。人間の口の構造はどこの国の人も一緒です。口の動きと音の関係がわかれば、理論的にどんな音でも出せるようになるのです。

授業では日常会話のほかグリム童話や、日本でも馴染みのあるドイツ民謡の歌詞などの短い一節の音読を通じて、ドイツ語特有のリズムやイントネーションにも親しめるようにします。授業ではペアワークやグループワークを通じてみなで声を出しながら学んでいきます。ドイツ語の中級以上の方でも、発音を勉強しなおしてみたい方はご参加いただけます。

- 1 ドイツ語の発音の特徴：音と文字の対応
- 2 ドイツ語らしい音を出す：母音と子音
- 3 ドイツの詩を読む：意味を理解する・アクセントとイントネーション
- 4 ドイツの詩を読む：ポーズと声の大きさ
- 5 物語を読む：意味を理解する
- 6 物語を音読する：アクセントを意識する
- 7 物語を音読する：伝えたい情報を意識する
- 8 物語を音読する：聞き手を意識する

メッセージ：みなさんが実際に声を出し、聞き手に伝わる音を自らの発声で実感することがなによりも大切です。授業では遠慮せずにどんどん大きな声を出して、未知の音を楽しんでください。

ドイツ語学院ハイデルベルクの  
Twitter・Facebook・Instagram  
は皆様のフォローをお待ちしています。

ハイデルベルクからのお知らせや先生からのメッセージ  
学院内の楽しい出来ごとニュース  
ドイツの最新情報などを随時掲載しています

twitter と Facebook は当学院のホームページ <http://heidelberg.jp/>  
からもご覧いただけます！

QR コードはこちら



Twitter



Facebook



Instagram

## 冬学期追加クラス

中山純先生の文法クラス

- ・読むための応用文法 火曜 19:00 ~ 20:30 講師：中山純
- ・ドイツ語中級文法 月曜 19:00 ~ 20:30 講師：中山純

上田浩二先生の翻訳クラス

- ・実務翻訳基礎講座 金曜 18:50 ~ 20:30 講師：上田浩二

ドイツ人音大講師の特別クラス

- ・音楽留学のためのドイツ語 3/3・7・10・14 14:00 ~ 16:00

## Buero からのお知らせ

冬学期 2020年1月27日～2020年4月18日

春休み 2020年3月18日～2020年3月22日

Osterparty 2020年4月11日(土) 18:30～

ドイツ語学院ハイデルベルク

渋谷区代々木 1-59-1-5F

☎ 03-3374-4863